

(案)

参考資料 1

沖縄県地域公共交通協議会

第2回協議会 議事要旨

日時：令和5年11月29日（水）

14:40～16:40

場所：那覇市IT創造館大会議室

沖縄県地域公共交通計画（素案）について

発言者	質問・意見	回答
琉球大学 神谷委員	<ul style="list-style-type: none">小中学生等のクルマによる送迎に関しては、学校教員にも公共交通を利用する意義を強く伝えることが重要である。データ連携に関しては、国の振興審議会でもその必要性が言われていた。データがあるのにデータが出て来ないとか、感覚論による議論ではなくて、データに基づいてしっかり計画を作り、データに基づいて政策の効果を検証することが重要である。例えば国際通りの荷捌き、空港の一般車による混雑、タクシーや観光バスの停車による路線バスへの影響等、他の影響でバスの定時性が担保されていない点を書き込んでいただければ思う。都市計画の中でも市街化区域の拡大の話をよく聞くが、今後都市圏内で公共交通が不便な地域で人口が増加していないか注視していくべきだと思ふ。	<p>(中村会長)</p> <ul style="list-style-type: none">教育委員会を含め理解していただくこと、関係者一丸となって取り組むことは重要である。データ連携に関しては関係者間で必要な共有をして、その上で可視化して評価となる。実証実験などをデータで評価して上手いかわないと批判されるが、至らない点があれば次の課題を出せばいいというスタンスも重要である。バスの走行を支障する点は、この計画でもきちんと言っていくことが重要である。欧米の事例でも例えば建築許可と公共交通の関係がしっかりしている。市街化区域を増やすことはバスサービスも準備することを計画に盛り込むことが重要で、バスに不便な市街地は増やさないことが重要である。

発言者	質問・意見	回答
<p>琉球大学 池田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市間交通を結ぶ交通の中には、基幹バスや高速バスが重要ではあるが、長期的な視野も入れると鉄軌道の記述も含めることが重要である。 ・ LRT の実現は沖縄の道路事情を考えると難しいと考えている。LRT 等として代表的に記載しているのが気になる。 ・ 観光二次交通結節点として何故北谷なのかの背景が示されていないのではないかと。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P10 の総合交通体系基本計画の中で鉄軌道が示されており、構想段階ということで素案では示していないが、本文の中でどのように記載できるか検討する。 ・ LRT については、総合交通体系基本計画の中でも記載されており、取り組む予定もあることから記載している。 ・ 関係部局と調整しながら整理していく。
<p>中村会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的には地域公共交通計画には都市間交通は入らないが、沖縄では那覇～名護間など都市間移動は日常的な範囲なので、前提としてバスによるネットワークが重要であること、そして長期的には鉄軌道という流れで記載する方法があるのではないかと。 ・ LRT は道路空間にどのように入れていくかは様々議論あるが、新たな公共交通は必ずしも LRT だけではないので表現方法は工夫できるのではないかと。 	

発言者	質問・意見	回答
文化観光スポーツ部 川上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客の移動手段の課題があまり触られていないが、那覇空港ではレンタカー受け渡しや送迎で混雑しているため、レンタカー受け渡し場所の分散化が重要と考えている。 ・ 北谷は、アメリカンビレッジなど観光客の目的地でもあり、観光の目的先でレンタカーに乗り換えてもらうこと、加えて北谷町でも美浜駐車場を結節点として計画していることから、北谷から取り組むことを考えている。 ・ 計画素案への課題の記載方法については、庁内で調整していきたい。 	
琉球大学 池田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北谷の南には伊佐もある。また、西普天間でも開発が進められている。今後交通渋滞の発生も想定されるため、北谷以外の伊佐など周辺地域も念頭に考えて欲しい。 	<p>(文化観光スポーツ部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記載方法については庁内でも調整していく。
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光については、施策へのつながりがわかるように課題の書き方を工夫していただきたい。 	

発言者	質問・意見	回答
<p>琉球バス 交通 小川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在補助金をいただきバス路線を維持するため事業者は大変な努力しているが、地方を活性化するための記述はどのあたりにあるのか。 ・ 人手不足については、4社運転手の年齢構成で見ると60歳以上が37%で、一方で30代10%、20代が2%となっている。これは、県内二種免許取得者も同様な年齢構成であり構造的な問題を抱えている。バス運転手が構造的に確保できるよう取組を切迫感を持ってお願いしたい。 ・ 観光二次交通に関連するが、那覇から本部まで高速船が1日2往復ある。観光客が6～7割であるが、業務等の移動ニーズもあるので、海上バスの位置づけもあるのではないか。そのためにも利便性増進があるのではと考えているので検討をお願いしたい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P86の連携交通会議では、県と北部、中部、南部の各圏域市町村、バス事業者で利便性の高いネットワークについて議論している。基幹軸では複数の並走する系統の効率化について、地方では必要な区間の維持やクルマからの転換等について議論している取組がある。また、P93では交通まちづくりとして各一次生活圏での取組を記載している。 ・ 人手不足については、P107で記載しているが、現在の支援策以外にも今後全国の取組事例も見ながら次年度以降効果的な取組あれば追加していきたい。 ・ 那覇～本部間の海上交通については、本島内の移動が分担していることや、交通円滑化にも関係することから、その位置づけ等について検討していきたい。

発言者	質問・意見	回答
<p>琉球バス 交通 小川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北部圏域では、将来的なネットワークを検討しているとの話も聞いている。バス事業者も地域の足を確保するために頑張っているので、当面のバス路線をどう維持していくかの視点が重要ではないか。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各圏域連携交通会議では、バス減便や窮状を情報共有して危機感以て、できるだけ早くネットワークや結節点を議論していく方向で情報共有したところであり、記載内容は加筆していきたい。 ・ また、P92 でも路線バスがないところでの自治体のコミュニティバスと路線バスとの連携等検討を進めている。
<p>中村会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域でも高速船を活かした事例はある。全体の体系の中で可能な選択肢であるので上手く入れることを検討してほしい。 ・ 二種免許は、取得を推進する施策について何があるかを考えていただきたい。 ・ 当面の路線バスの確保・維持については、今重要な路線バスを守っていくこと、そして必要な見直しを行っていくというスタンスは計画の頭に記載しておいて欲しい。 ・ 必要な見直しや確保・維持のためには、小さな車両に変更したり、ダイヤモンドにしたり、福祉送迎車両とかモビリティ資源の総動員などあるが、人々の移動の選択肢を確保することが何よりも重要なことである。 	

発言者	質問・意見	回答
<p>沖縄総合事務局開発建設部 坂井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 評価指標の公共交通利用者数は、路線バスが年間値でモノレールが1日値になっているので揃えるか、その旨記載した方が良いのではないか。 ▪ 県民一人当たりの路線バス利用回数は、1.35回/年ではなく、13.5回/年となるので確認してほしい。 ▪ 今後2024年問題もある中で、運転手の待遇を上げなければならぬため、コストは増加するのではないか。このため、需要は横ばい、公的資金は下げる、黒字化を目指すといった目標のバランスは悪くないか。 ▪ 令和元年の黒字化を目指すのであれば、利用者数も令和元年並みにしないとイケないのではないか。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 確認して修正していく。 ▪ 確認して修正する。 ▪ P13に収支を示しているが、コロナ前は黒字になっているので、こちらを意識して黒字化の目標設定している。
<p>ハイヤー・タクシー協会 大城委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ タクシー利用者の令和3年度は、コロナの影響があるので最新の令和4年度と比較してはどうか。 	
<p>琉球バス交通 小川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 路線バス利用者は、現在でも利用客は1割程度戻ってきていない。特に通勤目的の利用者が戻っていない。 	

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ P121 の評価指標は、標準指標なのでマストとなるが、現状の基準値をどうするかは、コロナ前、コロナ中の2つの実績を出すことが重要である。 ▪ その上で、目標は控えめではなく、基本的には高めの目標値を設定してほしい。 ▪ そして目標値には根拠を持つこと。例えば収支黒字のためにはこのくらい利用者、コストが増加するならこのくらい利用者となることが重要である。 ▪ すぐに手が届く目標値ではなく、少し背伸びした目標にして、その目標を目指すには誰が何をすることがわかるようにすることも重要である。 ▪ 計画策定市町村数は、各市町村計画を作られるのだから、敢えて指標としてなくてもよいのではないか。 ▪ 自動車保有台数の伸びについては、自動車がどう使われているかを示す距離の指標やその代理変数となるガソリン消費量の方が大事である。 	

発言者	質問・意見	回答
<p>沖縄総合事務局運輸部 村上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 現状のバス路線の確保・維持については、どういうところが大事である等、留意していく旨の記載をお願いしたい。 ▪ リ・デザイン検討会を開催しており、様々なライフスタイルと交通について議論等をしている。通学、通勤に関する施策を含めて今後とも連携していきたい。 ▪ 各圏域のネットワークの具体化は重要である。観光や結節点など様々な分野のことも考えていくことが重要であり、運輸部としても連携していきたい。 ▪ E V等環境負荷軽減の視点につながる施策についても記載していただきたい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 引き続き運輸部とも相談させていただきながら、表現については検討していく。 ▪ 記載されている施策は、様々な関係者との連携が必要であり、今後とも連携して取組んでいきたい。 ▪ 連携交通会議は、今年度から始まった試みであるが、関係者と連携しながらスピード感を持って取り組んでいきたい。 ▪ E V等の表現は今後調整させていただきたい。
<p>ハイヤー・タクシー協会 大城委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 人材育成は死活問題であり、既存支援事業大変助かっている。 ▪ データ連携の部分では、タクシーの配車アプリが、効率的な配車による渋滞緩和につながっている部分もあるため、表現については工夫いただきたい。 	

発言者	質問・意見	回答
豊見城市 嘉川委員	<ul style="list-style-type: none"> 本市では、次年度から新しい公共交通システムの検討を予定しており、本計画でも位置づけが重要と考えているが、P83の“LRT等の新たな公共交通”の表現で適切かどうかを確認させていただきたい。 資料4-1N012 高速バス拡充の修正がP85の中では反映されていないので、修正お願いしたい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定のシステムに限定されているとのご意見もあったので、素案の記載方法については、今後調整を進めていきたい。 今後修正していく。
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日いただいたご意見については、今後個別に調整し会長確認の上でパブリックコメントを実施することによろしいか。 	<ul style="list-style-type: none"> 異議なし

協議会規約（案）について

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> 協議会規約改正（案）について意見はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 異議なし。

以上